

第3回こどもはぐくみ推進本部会議録（要旨）

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 開催日時                    | 令和6年10月1日（火）15:30～17:00  |
| 場所                      | 真庭市役所 本庁舎 応接室  |
| 出席者                     | 本部長（太田市長）、副本部長（三ツ教育長）、<br>危機管理監（今石）、総合政策部長（木村）、総務部長（金谷）、<br>生活環境部長（代理:佐山）健康福祉部長（樋口）、産業観光部長（木林）、<br>林業政策統括監（石原）、建設部長（美甘）、まちづくり推進監（川端）、<br>会計管理者（今石）、教育次長（武村）、消防長（大美）、<br>湯原温泉病院事務部長（西本）、議会事務局長（児玉）、<br>蒜山振興局長（南）、北房振興局長（行安）、落合振興局長（大塚）、<br>勝山振興局長（三浦）、美甘振興局長（安藤）、湯原振興局長（河島）   |
| 事務局等                    | 子育て支援課（広岡、吉原、神庭、二宗、水島）   |
| 傍聴者                     | 2名   |
| 議事内容                    | <p>《報告事項》</p> <p>①こどもはぐくみ政策推進マトリックス会議の報告 <a href="#">資料1</a></p> <p>②真庭市こども・子育てプロモーションに関するアンケート結果、今年度の情報発信体制強化の状況について <a href="#">資料2</a> <a href="#">資料3</a></p> <p>《協議事項》</p> <p>①子育て支援施策で深掘りした検討内容について <a href="#">資料4</a></p> <p>②真庭市こども計画骨子(案)について <a href="#">資料5</a> <a href="#">別冊1</a></p> <p>③こどもはぐくみ推進ロゴマークについて <a href="#">資料6</a></p> <p>④2025 国の概算要求について <a href="#">資料7</a> <a href="#">別冊2</a></p> |
| 冒頭の事項                   | <p><b>本部長（太田市長）</b>：出生数だけを行政が追求するのはおかしい。結婚も含めて自由であるもの。私の価値観からするとそういう<u>選択の自由を前提にしながら結婚したいと思う人、こどもを産み育てたいという人、それぞれの環境、雰囲気を作っていくのが行政の役割。本人がいくら努力しても、親が、あるいは家族が努力しても仕方ないようなことについて行政がきちっとしていくということが私は大切だと思っている。</u>そういう意味での自主的な部分、それを100%ではないかもしれないが、追求していくのが現代の国家であり社会だと思う。その中でこどもはぐくみということやってきて、さらにみんなで知恵を出し合って、こどもを育てやすい地域社会を作っていきたい。所管を越えて意見を出していただければ。今当事者となっている方々や経験のある方の声もお聞きしながら、進めていければと思う。</p>               |
| ①こどもはぐくみ政策推進マトリックス会議の報告 | <p><b>事務局</b>：8月26日に第3回マトリックス会議を開催し、「子育て支援施策の深掘りするテーマ」、「真庭市こども計画骨子案やこどもはぐくみ推進ロゴマークの検討」を行った。会議での確認事項として、「子育て支援企業連携」は、国や県の支援制度を企業へ届けられる体制と企業への意識啓発の方法を引き続き検討していくこと、「こどもの居場所」は、アンケート結果から、市民ニーズの高い公園などの遊び場について既存の公園などにある遊具の整備の方向性や周知の方法、シンボリックな遊具と全天候型の遊び</p>  |
| <a href="#">資料1</a>     |  |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>場の検討をコアメンバーを中心に進め、市民に対する財政的支援や空間と人をつなぐコーディネーターの役割など人的要素の課題なども引き続き検討していくこと、真庭市子ども計画は、骨子案を推進本部会議、子ども・子育て会議に諮っていくこと、素案の作成では、子どもはぐみ応援プロジェクトとの関係を整理しながら進めること、子どもはぐみ推進ロゴマークは、マトリックス会議での候補を推進本部会議で諮ること、以上の4点を会議のまとめとした。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：子どもの遊び場では全天候型という要望が多いか。</p> <p><b>事務局</b>：様々なアンケートを取ってきた中でも、<u>遊び場や公園、遊具の整備は子どもを抱える保護者からの要望が多い。今年のような暑さの中では子どもを外で遊ばせられないという課題もあり、全天候型の遊び場があればというニーズがある。</u></p>   |
| <p>②真庭市子ども・子育て<br/>プロモーションに関するアンケート結果、今年度の情報発信体制強化の状況について</p> <p>資料2 資料3</p> | <p><b>事務局</b>：このアンケートは、市の子ども・子育てに関する情報を SNS を通じて市民の皆様にも効果的に届けていくための参考とすることを目的に7月19日から8月2日までの15日間、まにこいんのアプリにて実施。642件あった回答者の属性は、女性が66%、年齢は40代31%、50代21%、60代20%、30代17%。<u>自由記述は137件の回答があり、公園や遊び場が少ないから増やしてほしいといった、子どもが気軽に集えて安心して遊べる場など、子どもの居場所を求める声があった。遊具や全天候型の遊び場を求めるご意見を頂戴している。その他、放課後児童クラブの要望や、情報を調べても分かりにくいなどのご意見を頂戴した。</u></p> <p>課題の情報発信に関連して、今年度は情報発信の体制強化のためにLINEを使った情報発信を進める予定。現在、防災で使用している真庭市公式LINEにリッチメニューを配置し、子育てやその他の情報も検索可能とするほか、閲覧者があらかじめ真庭市公式LINEで設定した内容に応じて、ホームページの情報等も配信できるようなシステムを組む予定。</p> <p>現在、関係課で協議を進め、問題がなければ年明けには運用開始予定。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：<u>保育所について日曜日の園庭解放ができないのか。学校は行程を解放している。なぜ保育所はいけないのか。</u></p> <p><b>子育て支援課長</b>：備品や倉庫など色々あり、セキュリティ面での課題がある。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：建物に入るわけではないし、倉庫を閉めるなどして対応できないか。学校でも、1年に1回しか使わない所を、空いていないと言う。<u>工夫してほしい。工夫をしたら空き教室が出る。既成概念など、考えずにできないとか、具体的に詰めてほしい。人口減もあり、公園を作った3年後には人がいないようなことにはできない。本当にしないといけないことをやればいい。住民の方の意見を受け止めながら将来を考えて何ができるのかと考えるといけないので知恵を出し合って、今の財産を出し合ってやっていくということをお願いしたい。</u></p> |
| <p>《協議事項》</p> <p>①子育て支援施策で深掘りした検討内容について</p> <p>資料4</p>                       | <p><b>事務局</b>：「子育て支援企業連携」については、企業連携の検討事項として、育児休業を取得しやすい職場づくりのため、企業経営者に向けた意識啓発をどのように行っていけばよいか、国が進める両立支援のための支援制度の情報などが市内の企業に対して届いているのかという点について、岡山県子ども未来課から情報提供いただいた。</p> <p>県では、産業労働部で企業支援情報を取りまとめてホームページで公開していることや、経済6団体の協力を得て会報誌への掲載や折り込み広告を行っていること、産業労働</p>  |

部から企業約 8000 社へ直接郵送を行っていること、子ども未来課からも従業員 30 人以上の事業所約 4200 社へ直接郵送を行っていること、そのほか、シンポジウムの開催や子育てしやすい職場アワードの表彰など 幅広く周知を行っている。情報が行き届かない部分、小規模事業者などの方には届いてないという現状があるという認識もあり、その辺りを市と連携しながら啓発を行っていきたいという意見があった。企業の方から直接お聞きした際には、国や県の子育て支援制度の情報を入手できていないともお聞きした。企業への啓発方法の検討が必要という課題を認識している。子育て支援課でも、今年度も企業座談会を開催して、子育て支援をテーマに企業とどういったことが取り組めるかについて意見交換を行う予定としている。

**産業観光部長：**今年度、産業政策課では子育て世代の就業環境の改善のために全国の企業で子育て世代に対する支援を行っている優良事例を調査、分析を行っている最中。分析後、市内の企業に対して展開をする予定を考えており、今年度は市内の数十社にヒアリングを行って、その優良事例の導入や、その検証を行って、来年度に向け全企業に向けてフォロー、啓発を行っていくことを考えている。

**事務局：**「こどもの居場所」について、7～8 月にかけて実施したこども計画策定に関するアンケートの中で、小学 5 年生、中学 2 年生、18～39 歳の若者にしてほしい居場所を調査した。どの年代においても、「いつでも行きたい時に行ける」、「好きなことをして自由に過ごせる」などの回答率が高い結果であった。こどもの居場所の検討事項として、場所や遊び、体験活動、人との関係性など、居場所作りはととも範囲が広く、マトリクス会議の中では、ライフステージに応じた切れ目ない居場所作りの中で、これまでのアンケートの中でもニーズの高かった公園などへの遊具のインクルーシブ遊具の設置や老朽化した遊具の整備、遊び場マップなど周知の不足、振興局庁舎などを活用した全天候型の居場所の検討といった空間的要素、市民活動に対する財政支援など物的要素、空間と人をつなぐコーディネーターの役割など、人的要素などの 3 つに絞り、課題として整理した。コアメンバー会議では、マトリクス会議での協議を受け、アンケート結果から市民ニーズの高い公園などの遊び場について、既存の公園にある遊具の整備の方向性や周知の方法、シンボリックな遊具と全天候型の遊び場の検討、また、市民に対する財政的支援や空間と人をつなぐコーディネーターの役割など人的要素の課題などを検討し、既存の公園の遊具整備の方向性や周知の方法の検討を進めること、振興局庁舎ごとでの居場所については、各振興局が来年度に向けて検討すること、市民に対する財政的支援については、既存の補助事業の拡充などを検討すること、こどもの居場所に人的要素の活用は、コーディネーターの役割を検討することの 4 点を協議のまとめとした。

遊び場マップについては、その後更新がなく、市のホームページでも利用者が調べたい時に決まったものがなく分かりにくいなどの課題がある。43、44P が市内の公園などの一覧、45～47P が 公園以外でこどもの居場所となりえる場所の一覧、48P はこどもの居場所づくりに活用できる財政支援の一覧を参考につけさせていただいている。来年度に向けた事業を検討していくため、マトリクス会議での協議の方向性などに対して、本部会議の方でご意見をいただけたらと思っている。

**本部長（太田市長）：**公園や遊具の話があるが、全体の把握はどうしているのか。

**まちづくり推進監：**都市公園については建設部が確認する。ただ、いろいろな公園があ

るので全を把握できていない。

**本部長（太田市長）**：まずは全ての把握。そこから共通認識をして必要な情報を出すことをしないといけない。

**まちづくり推進監**：2、3年前に公園の遊具の関係で、当時の都市住宅課の方で、公園にある遊具をわかる範囲で取りまとめし、学校関係と各部署へ点検の周知をしている。

**本部長（太田市長）**：都市公園については全部把握できているということか。あと、業者が住宅開発などで作った公園や農業改善事業で作った集落の公園はそれぞれどのように把握をしているのか。

**事務局**：資料の43Pは遊具がある公園、遊び場をこちらで調べたもので、44Pがまちづくり推進課が調査でまとめた旧町村時代から大きな遊具があるもの資料。

**本部長（太田市長）**：美甘のふれあい公園というのは振興局で管理してるのか。

**美甘振興局長**：美甘のふれあい公園は、草刈りをしたり、舞台は危険だということで解体し、以前よりも広がった。トイレもあって、遊具は十分ではないが情操教育にとってもよい場所で、大勢の方が来て下さっている。先ほどのアンケートに、いつでも行きたい時に行けるとか、そういう意見が多いので、本当にいつでも来てくれたらいいと思うところ。

**本部長（太田市長）**：これは全部の把握なのか。所管がはっきり管理しているのか。

**まちづくり推進監**：ここに載っているのは、基本的に所管があるもの。先ほど市長が言われたような地域の公園などについて、市の管理でないものもあり、それらは把握ができていないのが現状。

**本部長（太田市長）**：全天候型については少し置いておいて、本当にこどもの今の数だけではなく、どこでどれだけ何が不足してるか、難しい問題だが、その辺は主観的でなくどう考えてるか。

**事務局**：振興局で維持管理しているものもあるし、スポーツ・文化振興課で管理しているものなど様々である。コア会議で話し合いをした時は、遊具の整備や、老朽化したものをどうしていくかも含めて、市としての方向性、グリップするようなどころが必要ではないかという話が出ている。

**本部長（太田市長）**：とにかく危ない状態ではいけないので、改善を。順番というよりは、やらないといけないものをする。とにかく把握をして、トータルをどこで管理司令塔となるか。

**健康福祉部長**：そのことは副市長とも事前の協議をし、まとめるということに。例として、遊び場マップ。載せる以上は管理が必要になるし、管理ができないものを載せるとなると、逆に危険を伴うので、その辺をどういう風にしていくかを、コアメンバー会議等で来年度に向けて、振興局としても手を入れたいと思いを持っている公園もあるので、その辺をはっきりさせた上で、来年に向け計画的にどう手を入れていくかを事務レベルの中でもう一度方向性を決めていきたい。

**本部長（太田市長）**：トータルの司令塔がいる。そこを明確にした上で、振興局単位で、公園らしきものまで含めてトータルで把握して、市の管理でないものについてはどうしようもないが、こどもの安全性や地域と話をしないといけない。市の管理分は、事故があったからでは遅い。とにかく公園らしきものも全部把握して、市の管理のものと市の管理でな

いものと分けて、市の管理でないものについてはどうするかは個別に調整をして、市の管理であるものについては所管課を全部決めてやっていく。全部をナンバリングして管理していく。その上でどこに子どもがいるのか、これは地域の公園なのか、それとも全市的な公園なのか、それでどこに足りないかということ、10年ぐらい先を見てやってほしい。現状はもちろん見ないといけない。

**健康福祉部長**：基本的にはアンケートのことも含め、一定そういうことを整理をした上で、どこに手を入れるかを将来を見ながら、振興局でも協議して、どこに手を入れていくかを考えて、最終的にどこがクックをしてまとめていくかをもう一度協議をして最終決定したい。

**本部長（太田市長）**：ポケットパークは、旧市街地のところがない。ポケットパークが勝山に一個できたが、久世の空き地は、子どもだけではなく、お年寄りのことも考える必要がある。危ないものがあれば緊急対応するように。

**事務局**：司令塔は、関係者が集まって協議をさせていただく。

**本部長（太田市長）**：屋内の全天候型とか、あるいは犯罪の問題や、倒れてきたら大変だが木を増やすとかというようなこともあるし、旧町村に1箇所程度ゲートボール場のような全天候型の施設はある。北町公園を大きなものとしては一つ整備したい。ポケットパークも。

**まちづくり推進監**：今の北町公園の基本構想に基づき、全天候型の遊び場というのは、当然検討していく。

**本部長（太田市長）**：久世地域の高校、旧遷喬尋常小学校も含めて事業が集中するので、財政と仕事の問題含めて。防災的に一時的に逃れるかというようなことも含めて。子どもだけではなく、高齢者のひだまりの公園的なことも考えないといけない。

**教育長**：公園の話ではなく、居場所の話としてこのアンケート結果は、子どもが求める居場所を、端的に表してるとすごく思う。ハードも大事だし、空間も大事なんだけど、結局安心があって、やってみたいことや、やりたいことがやれる場所、それが大事だとすごく思う。もう一つ大事に考えないといけないのは、子どもの数が少子化でどんどん減っていくこと。相対的には大人が目が増えていく。色々と場所を作っても、結局子どもを禁止ルールで縛ってしまうと、子どもは本当にさきほどの安心や自由にやりたいことがやれることは生まれていかないで、大人がいかに変わるかも、重ねて考えていかないといけないというのをすごく思う。子どもたちが行ってもいい場所、行っても行かなくてもいい場所、何もしなくてもいい場所、やってもいい場所ってことは、公園も1つの場所だと思うが、例えば真庭が今持っている公共材の各振興局、公民館や図書館であるとかは、温かく大人の目さえあれば多分児童館と同じような役割が果たしているんじゃないかと思う。公園ももちろん大事だが、今あるものを生かして、どうやってその子どもの安心を作っていくのかっていうことを、視点として大事にしていけばいいのではというのが1つ。もう1つ、子どもが時間と空間と仲間がいる場所、放課後というのがすごく重要。中学校は部活動がある。子どもの数が減ってくると、みんなバラバラで帰って、家帰るともう仲間がいなくていう状態。その放課後に子どもたちの学びとか体験とかやりたいことがやれるという状況をどうやっていくかは、どこかに丸投げというのではなく、みんな考えていかないといけないと思いアンケートを見た。

**本部長（太田市長）**：今年残念だが出生数が170人。その次にはすぐ100人にな

る。真庭全体で。そうしたら子どもはバラバラ。今言われているのは、スマホを見る時間が長く、それが学力低下にもつながっている。確かに子どもが放課後バラバラになる。100人の子どものことをもう考えないといけない。居場所のもう1つのところ、まあぶるについてどういう活動してるか教えてほしい。

**教育次長：**まあぶるは、今まで公民館を使って高校生が勉強を教えたのを今まあぶるでやってもらうようにしている。そこに高校生が自由にたまり場みたいにしていて、勉強を教える子どもたちも集まるし、それ以外にも、中学生とか高校生が空いている日、その時間帯は自由に行っている。

**本部長（太田市長）：**私も時々行ったりしているが、中学生も小学生もいて、親や学校と離れて、精神的にいい空間、それも先輩もいれば後輩もいる。2階では学校では学べない勉強をして、とても献身的にやってくれている。でも勝山の子が来るわけにいかない。だから私は、親から見たら公園と言う、言い訳してるわけじゃない。でも子どもから見たら、親からも離れて学校からも離れてみたいな、異年齢、集団の場があるというのは本当に大事だと思う。

**事務局：**居場所としては、38Pの資料で、空間的要素、物的要素と人的要素というくくりで検討をしている。遊具も公園も1つとして居場所がかなり幅広く考えられるということで、先ほどのまあぶるがされてるようなユースセンター、これは子どもたちのとても居心地のいい居場所になっている。ただ、久世の子どもたちはそこに行けるが、北房、蒜山など真庭も広いので、そういったところ何か居場所ができないかという検討の中で、文化センターや、振興局の庁舎を活用して、そういうところができないかというようなことも検討している。例えば北房文化センターには空きスペースがあるので、そういった場所を活用して居場所が作れないかというようなことも検討として上がっている。1つには教育委員会の郷育魅力化コーディネーターも1つのコーディネーターの役割として、そういう繋がりができないかとか、そういう話も検討の中では出ている。

**本部長（太田市長）：**各振興局から意見を願います。

**北房振興局長：**北房ほたることポケットパークについて協議したが、今年ほたる公園を整備するのでポケットパークまで考えが至らないのでしばらく考える時間がほしいという回答を得ている。ポケットパークがあっても、そこへ行って1人だったら何の楽しみもない。文化センターも誰かいるから、そこに行ったらそれができる、遊べるというような人作りが必要なんじゃないかと、原さんを中心にお出かけクラブという組織があり、公園に行って遊ぶのではなく、いろいろな自然の中に出向いて遊びを体験するというような活動。この間、なりわい塾の方々が、森を活用した遊び場を行っているので、そこに子どもたちを招待した。何もなが、木に登ったり、そうめん流しをしたり、小細工をしたり、森の中が遊び場になり、子どもたちが生き生きとした空間になることを再確認したというような状況。

**湯原振興局長：**湯原振興局にはフリースペースや図書館があるので、平日はあまり子どもはいないが、長期休暇中はフリースペースで宿題したり、図書館に来ている姿を見る。

**本部長（太田市長）：**出生が100人ぐらいになることを前提に考えないといけない。すぐ公園、遊具という発想になるが、子どもたちは遊具だけで遊ぶわけではなく、遊びのを作ることが大事なこと。現状だけで要望に応える必要はなく、その辺はもっと色々深めて今言った居場所を。献身的な人がいないとなかなか難しいが。人が少なくなって離れて1

人 1 人になるから余計に子ども同士の繋がり、人口減少の問題もある。

**美甘振興局長**：美甘振興局管内には児童が 16 人しかいない。その中で数人は学校にあまり行きたくない子どもがいる。休みの日などは図書館になら友達と遊びに来てる子もいる。美甘振興局には、図書館が入っていていい場所になっていると思っている。マトリックス会議の中でもそういう意見を課長から言わせていただいている。このアンケートは小学生、中学生、若者の結果があって、保護者が思う公園の要望と子どもが求めるものがイコールではないだろうなど思いながらこのアンケート結果を見ている。それから、国の方針では、ライフステージに応じた居場所を切れ目なく持つことができることが重要とあるが、小学生、中学生、若者の回答もかけ離れているので、考えるのが難しい。基本的に遊具はいらないと思っている。自分たちで作る遊びを、友達同士、親子などで発想豊かに作って遊んでいただけたらと思っている。経験上、子どもと保護者を呼んだ時に、さあ遊びましょうと言ってもなかなか皆さん遊べない。今日はこれして遊ぶなど、このものを使ってこのように遊びましょうと言うと張り切って遊ぶ姿がよく近年も見られる。前は何もなくとも新聞だけあればどんな遊びでも何か発想してたような気がする。なので、もう 1 回遊具と公園というか空間はちょっとよく考えてした方がいいと思う。遊び場を作ればいい、あればいいというのはどうかと思う。インクルーシブ遊具も、障がいの有無も関係するが、年齢にもよる。年が大きくなってずっと遊ぶわけでもないと思う。全体的に考えて、このアンケートだけでは掴めないと思いながら見た。

**本部長（太田市長）**：それぞれもっと地域で深めていく。まずは全体を把握するということをまずやっていく。居場所作りは、避難所などいろいろなことを利用するという。高齢者に関しては、「なんてんあん」がものすごくいい場所になってる。子どもも行っているが、結構お年寄り、それも地元では目立つからと離れたところから来る。それで、コーヒーを飲んで、シフォンケーキを 100 円か 200 円で作ってくれて。やっている人たちが非常にいいからというものもあるが、ほっとする空間になっている。だから、高齢者社会の中でああいう、お家を貸していただいといるのも、その中に子どもたちも来れば、高齢者の人も来れば、普通の人も来ればというような。落合振興局どうですか、なんてんあんについて、何か補足説明はあるか。また、隣保館も非常にいい役割果たしてくれている。

**落合振興局長**：引きこもりの活動も、隣保館の方がやっている。なんてんあんも、計画的に開いているし、地域の人たちがよく行っていると聞いているので、そういった集まれる場所、気軽に寄れるような場所、特になんてんあんは 1 ついい場所だと感じている。落合振興局に遊具があるので、そこに親子で来たり、子どもたちだけで来たりしているのは目にする。高校生は振興局 2 階にソファもあるんで、そういったところで話をしているのも見かけたり、サンプラザの跡地のプラムタウンで、食べたり自由に過ごせるところもあるので、そういったところで高校生たちが放課後話をしていたり、買い物してジュースを飲んだり、そういったこともできる場所があるので、そういったところを利用したりする。そういった場所をうまく利用して、自分たちが自由に過ごせるような空間を自分たちで作ってるってところを目にすることもあるので、わざわざ市が用意をしなくても、あるものを利用して、子どもたちは考えてやってるという気もする。

**本部長（太田市長）**：この前、中学生 3 人ほど体育館で汗を流した後、振興局にいた。

**落合振興局長**：落合振興局に落合中学校元校長の三村先生がいるので、先生と話をするために来ているみたいなどころがある。

**本部長（太田市長）**：駅利用はもう少しできないか。

**落合振興局長**：団体が定期利用している。定期利用のことが目的の駅なので、高校生の利用はあまりないと思う。一般の人は利用している。

**本部長（太田市長）**：湯原振興局の入ったところの左側も、飲食をできるし、観光客も来ているか。

**湯原振興局長**：子どもも来ているし、観光客、魚の釣り人も来ている。施設にはどんどん入ってこられる。

**本部長（太田市長）**：割とフリースペースを利用してる感じがする。そういう議論をしていきたい。人数が少ない中で居場所作りとか、足とか。良くないなのは、スクールバスで通って家に帰って誰もいない。スマホを見て終わりというような生活になってしまうこと。全国的にそういうことが多い。

②真庭市子ども計画骨子(案)について

資料 5 別冊 1

**事務局**：子ども計画に関する意識実態調査の方を行った。真庭市内の小学 5 年生と中学 2 年生、未就学時、就学時の保護者、18 歳から 39 歳の若者を対象にアンケート調査を 7 月から 8 月にかけて実施。これらの調査は、子どもや若者、保護者が抱える現状を把握し、今後の施策に生かすために実施。来月以降は、アンケート分析結果を踏まえてワークショップなどを開催し、子ども・若者、子育て当事者からの意見を取り入れながら計画に反映していく予定。市民の意見を広く反映するために、パブリックコメントを 1 月に実施する予定。

子ども計画の骨子(案)について計画全体の構成について掲載した。構成は、大きく 7 つのセクションに分かれている。第 4 章では、計画の理念や基本目標を設定し、基本理念や施策の展開として、施策の柱に基づき政策の方向性を示す。アンケート結果を踏まえ、どれだけ達成できたかを図る成果指標と 5 年後に達成すべき目標値を設定。5 章では、4 章で示した策の柱や方向性について、それぞれの計画に沿った 施策区分、施策の概要を説明。施策にかかる具体的に取り組む事業は、子どもはぐみ応援プロジェクトの実施事業と整合性を図りながら取りまとめていくことを考えている。第 6 章の子ども子育て支援事業計画については、教育、保育及び地域子ども・子育て支援事業について、令和 7 年から 5 年間における量の見込みと、それに対応する確保方策の内容及び実施時期等について記述。具体的な内容についてはこれから検討するが、大きな枠組みはこのような内容で考えている。計画策定の背景と趣旨は、国全体で子どもを中心に据えた子どもまんなか社会の実現に向けた取り組みから、真庭市における取り組みを記載し、市としての姿勢を明確にしていく。計画の位置付けについて、法的な位置付けでは、「子ども基本法」に規定される子ども施策を推進するための市町村子ども計画であり、国の「子ども大綱」や岡山県の「岡山いきいき子どもプラン 2025」を勘案しつつ、市の最上位計画である「第 3 次真庭市総合計画」や福祉関連計画の上位計画である「第 3 次地域福祉計画」との整合を図りながら、令和 6 年度末をもって周期を迎える「真庭市子ども・子育て支援実業計画」に加え、新たに「子ども・若者計画」、「子どもの貧困対策の推進に関する計画」、「次世代育成支援行動計画」を包含する計画となる。本計画の対象について、対象は子ども大綱を参考に、子ども・若者をおおむね 0 歳から 30 歳未満まで、

施策によっては40歳未満まで及び子育て世帯とすることとしている。計画期間は令和7年度から令和11年度までの5年間であり、必要に応じて中間見直しを行う。55Pでは、国や県、真庭市の各計画などとの関係を図で示している。56Pでは、基本的理念や基本的な考え方の部分にあたる施策の体系を図で示している。具体的には、58P、基本理念として、現在の「真庭市子ども・子育て支援事業計画」の理念「家庭や地域の中で自分が大切な存在であることを実感することができる子育て環境づくり～こどもがまんなか～」を継承し、すべての子どもが幸福な生活を送れる社会を目指すものとしている。59P 施策の柱と施策の方向性については、こども大綱で示された基本的な方針を踏まえ、次の5つの施策の柱の設定を考えている。

1つ目、「こども・若者の権利が尊重される地域の実現」。すべての子ども・若者がその権利を尊重され、個々の個性や多様性が認められる社会の実現を目指す。

2つ目、「乳幼児期から学齢期の教育、保育環境の充実」。質の高い教育と保育を提供するため、保育人材の確保、こども園や放課後児童クラブの整備を進め、こども子育て環境の向上を目指す。

3つ目、「こども・若者の成長、地域全体で使用する環境の充実」。地域全体でこども・若者を見守り、安心して過ごせる居場所づくりや相談体制を進める。地域住民や行政、企業などが一体となって、こども・若者支えるための環境づくりを推進する。

4つ目の目標、「それぞれの状況に応じてサポートが必要なこども、若者及び家庭への支援」。ひとり親家族、障がいなどのあるこどもを抱える家庭、経済的に困難を抱える家庭に対して包括的な支援をする。こどもの貧困、こどもの虐待、ヤングケアラーについて、生活支援や相談の充実を図る。5つ目の目標、「ワーク・ライフ・バランスと子どもを生み育てるための環境づくりの推進」。働きながら子育てをする家庭が増加する中で、育児休業の取得促進や柔軟な働き方の導入支援など、仕事と育児を両立できる環境整備を目指し、地域全体で子育てをサポートする社会的な仕組みを目指す。

58ページの基本理念については、子育て環境づくりの部分で、今回、若者を含むため、環境づくりにしてはどうかという意見を事前にいただいている。この辺りも含めて、基本理念、基本目標についてご意見をいただきたい。

**本部長（太田市長）**：真庭版こどもの権利条例の策定を目指そうと思っているがそれとの関係はどうなっているか。

**事務局**：今回の計画は、法律に基づいて子ども・子育て新事業計画は策定しなければならぬ計画になっており、大綱、法律に基づいて作っている。こどもの権利条例については、今計画の方を優先的にしているので、今のところ予定していない。

**教育長**：真庭市も急激に少子化が加速している地域。その中でこどもたちが安心して育っていくには、こどもの権利が担保されていることが必要。子育てに対してこどもをはぐむという市民の活動量が増えていくことをどう支えていくのかを基盤に置かないと、自分たちで問題を解決していくとか、自分たちでないものを作り出していくとか、力を寄せ合って何かをやっていくという形になかなかならないことが危惧される。もう1つは、こどもの権利条例とも関わるが、こどもの声を聞くことをどう位置づけるのかというのがやはり重要だと感じている。こどもたちの意見、遊ぶ権利、休む権利などを、これから話をする中で検討できたらという思いはある。

|  |  |
|--|--|
|  | <p><b>本部長（太田市長）</b>：こんな広い地域で、こどもが100人ぐらいしかいない。その人間関係をちゃんと作っていきながら育ていくこと。人間形成において、<u>学校は車で送り迎えして、あと家族だけで大きくなっていいんだろうか。やはり異年齢も含めて、喧嘩しながらその中で育ていくような、学校と家庭だけみたいな。そんな子育てで良いのか。極めて自己本位的なような。自己肯定感に関して自分磨き、自分発見をできるような子育ても、できないのか。自分でものを考えて、自分で動いて、自分を発見できるような。文科省も同じ問題意識持っている。真庭では考えられないが都市部では週4日は確実に習い事に行ってる。ある程度恵まれた経済状況のこどもはほとんどそういった状況。私の知ってる限り、学習塾が1つ、スポーツ関係が1つ、芸事が1つ週4日ぐらい。学校は遊びに行く。中学から私学に行って。もう全然真庭とはそういう意味じゃ異質のスタイルになってる。でも真庭だからできるんだというような、そういうことをしていきたい。一方では、教育留学というか、家族で少数だけ、都市部から家族で引っ越してきてる人たちもいる。</u></p> <p><b>教育長</b>：いわゆる転入という形にしか今はなっていないが、それはそういう家族もいる。そのあたり振興局の方がよく知っていると思う。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：振興局で、把握している家族はあるか。</p> <p><b>北房振興局長</b>：北房に、神奈川から親とこども3人の家庭が転入。1番目が確か中学校で、2番目が小学校。これは確か安全な真庭を求めてというようなことを聞いた。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：今の現代病に挑戦するようなことができないかという思いはある。スケジュールはどう考えているのか。また、総合計画との関係はどうか。</p> <p><b>事務局</b>：総合計画との整合を図りながらになるので、人口ビジョンの数字もここに活用し、骨子案を今日ご意見いただいた後、11月中旬ぐらいに計画の素案ができるようになる。その後、議会の委員会へ12月に出し、1月にパブリックコメントをして、3月策定予定。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：将来の子育て、山村地域の100人ぐらいしかいないような地域になっていくことをどう考えていくか。</p> <p><u>とにかく現状だけを見たらダメで、やはり20年、30年先ぐらいまで今少なくとも考えないと、都市部じゃない真庭でこそできる。既成概念にとらわれず、皆さんでもう少し勉強をしたい。</u></p> <p><b>事務局</b>：計画の骨子の基本理念について、昨晚、子ども・子育て会議がありまして、理念の「家庭や地域の中で自分が大切な存在であることを実感することができる子育て環境づくり」、これが元々施設の総量とかを導き出す計画に基づいてだけのものでしたので、今度若者も入る計画がありますので、「自分が」のところが、「こども・若者が」と捉えると、「子育て環境づくり」という表現より「環境づくり」にした方がいいと思うが、意見等ないか。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：それではこの方向で進めていく。</p> |
| <p>③こどもはぐくみ推進ロゴマークについて <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料6</span></p> | <p><b>事務局</b>：昨年度、こどもはぐくみ応援プロジェクトの推進の中で、マークがあった方がわかりやすいという意見があり、「みんなではぐくむ子育てのまち」の実現に向けて、地域全体で子育てを応援する機運を醸成するため、ポスターやチラシ、SNS等で使用することもはぐくみ推進ロゴマークの制作を進めている。</p> <p>ロゴマークのデザインコンセプトなどを参考に、8月26日開催のマトリックス会議で3案の中から決定した。また、中に入れる文字については職員アンケートを取り、「こどもまんなか</p>  |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>まにわ」と決定した。こどもはぐみ推進ロゴマーク案としては、資料のとおりと事務局では考えており、本日の会議を持ってご決定いただきたいと考えている。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：これは決めていきたいわけですが、特に修正無ければこれで決定する。</p> <p><b>事務局</b>：最終的なロゴマークについては本日決定いただいたものを一部デザインを調整して確定する。</p>   |
| <p>④2025 国の概算要求について</p> <p>資料 7 別冊 2</p> | <p><b>事務局</b>：来年度のこども家庭庁の概算要求のポイントの資料をつけている。来年度に向けて、こども関係の事業で、こども家庭庁の補助事業も検討されてる部署もあるかと思うので、積極的に活用いただけたらと思う。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：幼子のおもちゃも、全部木ということではなく、少し配慮をして子育てできるようにした方がいい。そういう子どもを育てる環境整備とができればと思う。試行的事業など真庭の子どもたちは、自然との親しみがすごいという情操教育をすることも考えてもらえれば。</p> |
| <p>閉会</p>                                | <p><b>教育長</b>：本当に多岐に及ぶ内容、資料の提供もありがとう。現状を考えると、多分困難なことは数え上げればきりがない。でもやはり今あるものを生かしながら何ができるのかを知恵を出し合っていくことが今求められることを、今日の会議を通じても感じた。皆さんで知恵出し合えばいろいろなことが回ると思うので、ぜひ頑張っていけたらと思う。本日はお疲れ様でした。</p>   |
| <p>確認事項</p>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度深掘りしてきたテーマである「こどもの居場所」と「子育て支援の企業連携」について、来年度に向けた方向性を確認した。</li> <li>・こども計画について、「基本理念」、「基本目標」について決定した。また、今後の素案作成の方向性を確認した。</li> <li>・こどもはぐみ推進ロゴマークを決定した。</li> <li>・来年度予算要求に向けて国の概算要求を共有した。</li> </ul>                     |